

請求項の数 1

(2/全 4 頁)
(24) (44) 公告日 平成 7 年 (1995) 6 月 5 日

(51) Int. Cl.⁶ 識別記号 技術表示箇所 F I
H 02 K 19/36 A
5/16 Z

(21) 実願昭 63-165903

(22) 出願昭 63 年 (1988) 12 月 22 日

(65) 実開平 2-88458

(43) 平 成 2 年 (1990) 7 月 12 日

(71) 出 願 人 株式会社三ツ葉電機製 (詳 馬)
作所
(72) 考 案 者 近藤 純 (詳 馬)
(74) 代 理 人 弁理士 廣瀬 哲夫
審 査 官 松澤 福三郎

(56) 参考文献 特開昭 60-20748 (J P, A)
特開昭 56-164685 (J P, A)

【考案の名称】 車両用交流発電機におけるレクチファイアの固定構造

【産業上の利用分野】

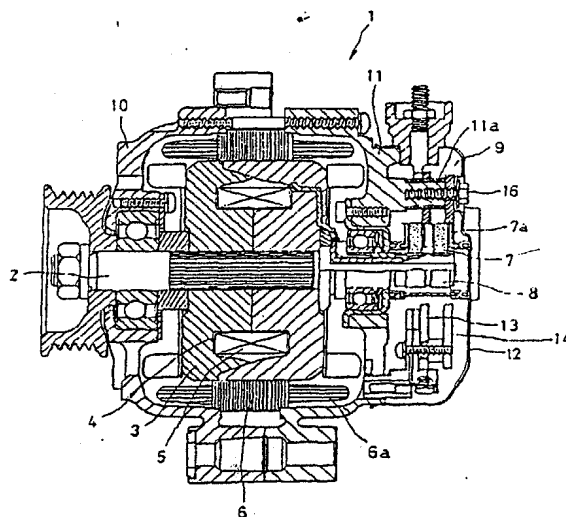
本考案は、乗用車、バス、トラック、自動二輪車等の車両に取付けられる車両用交流発電機におけるレクチファイアの固定構造に関するものである。

【第 1 図】

【目的または効果】

一般に、この種車両用交流発電機に内装されるレクチファイア（整流器）は、プラス側とマイナス側のダイオードが設けられた一対の放熱板で構成されると共に、両放熱板の絶縁を確保してケース体にボルト固定されている。ところでこの様なものにおいて、上記マイナス側放熱板は、ケース体との導通が許容されるため、放熱効率の点からケース体との接触面積を大きく確保することが望ましい。

そこで第 4 図に示す如く、レクチファイア 9 を、カバー体 12 により覆蓋されるケース体 11 外側面にボルト固定 16 するべく構成すると共に、プラス、マイナス両放熱板 13、14 のボルト挿通孔にパイブリベット 20 を内嵌することにより、マイナス側放熱板 14 の熱をパイブリベット 20 を介してカバー体 12 およびケース体 11 に伝導させようとしたものがある。しかるにこのものは、パイブリベット 20



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 プラス側とマイナス側の一対の放熱板で構成されるレクチファイアを、カバー体により覆蓋されるケース体外側面にボルト固定して成る車両用交流発電機において、前記ケース体外側面に形成されるボルト孔周縁に、筒状のボス部をカバー体に向けて一体に突設し、該ボス部の外周面部に、ボス部先端を越えて突出しないようにして筒状の絶縁カラーを外嵌し、該絶縁カラーの外周面部にプラス側放熱板を外嵌すると共に、マイナス側放熱板を、ボス部先端面とカバー体内側面とに直接面接触させる状態で挟持させ固定ボルトによつてカバー体と共にケース体ボス部に螺着固定したことを特徴とする車両用交流発電機におけるレクチファイアの固定構造。

トヨビ・H3B 通アースは カバー 先端部

【目的または効果】の続き

を介在させる必要があるため、放熱効率に劣る許りか、部品点数および組立て工程数の増加を招く欠点を有し問題があった。

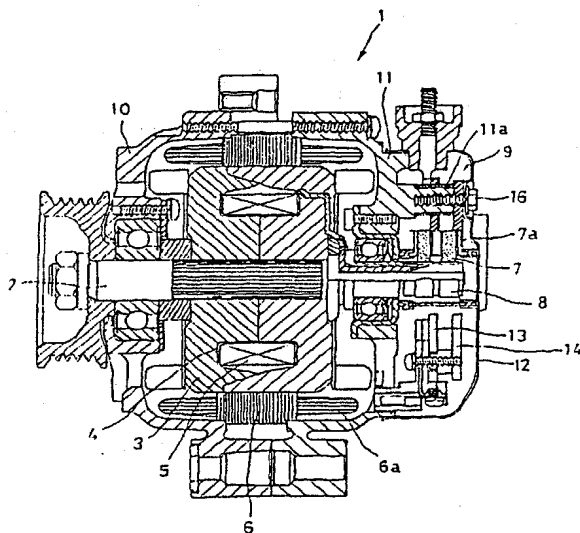
本考案は、上記の如き実情に鑑みこれらの問題を解決することができる車両用交流発電機におけるレクチファイアの固定構造を提供することを目的として創案されたものである。

【図面の簡単な説明】

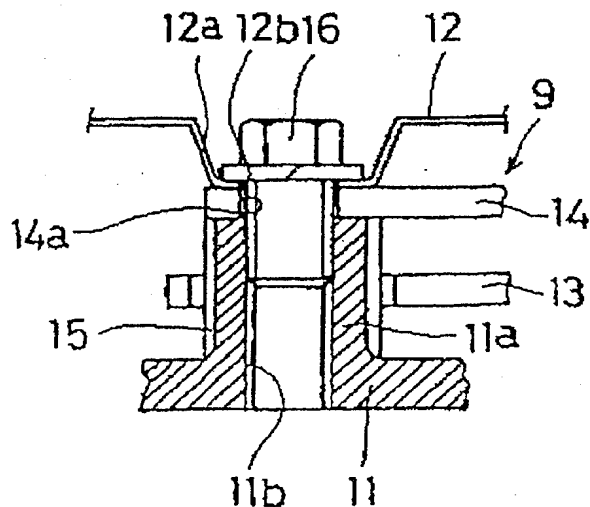
図面は、本考案に係る車両用交流発電機におけるレクチファイアの固定構造の一実施例を示したものであつて、第1図は車両用発電機の縦断面図、第2図は要部縦断面図、第3図は同上分解斜視図、第4図は従来例を示す要部縦断面図である。

図中、1は発電機、9はレクチファイア、11はリヤケース、11aはボス部、11bはボルト孔、12はリヤカバー、13、14は放熱板、15は絶縁カラー、16は固定ボルトである。

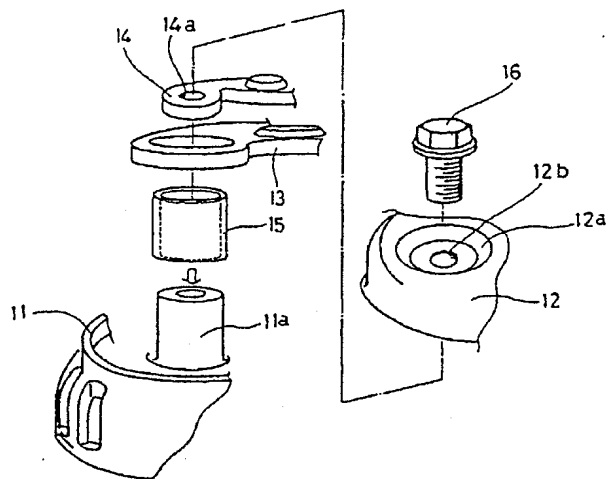
【第1図】



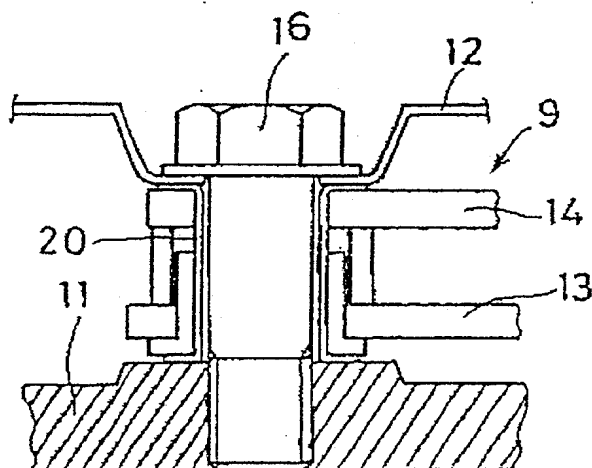
【第2図】



【第3図】



【第4図】



FIXING STRUCTURE OF RECTIFIERS OF VEHICLE AC GENERATOR

JP-Y263-165903 (Y2-7-24932)

LAID OPEN: July 12, 1990

an insulation collar is disposed between positive and negative fins.